

アリ、頭ハ深黒色、ヨク人ニ馴ル、頭ヲ押ユレバ愈頭ヲ擧ゲ、人言ヘバ鶯モ亦言フ、然レドモ鶯鶯類ノ如クニ語ハ分ラズ、此鳥毛柔ニシテ性冷ナリ、小兒ヲ掩ニ用ルニ良ナリ、

〔百千鳥〕下 鶯 餌かい 黒米水に入菜

大きき世に知るごとし、白と鴈ふと二種有、しろのかたは大ぶり也、聲高くやかましき物也、玉子三十日又は廿九日にて開る、子は殊之外きれるなる物にてよし、菜小米を水に漬飼ふ、へら杯にて能折々餌を廻して飼ふ時はよく喰ふ也、捨置時は餌くひ少し、蚯蚓を飼ふべし、子の内はよく喰ふ、親に成ては虫を一向喰ず、魚も喰ず、たゞ菜米ばかり也、子は開りて一兩日はふら付飼立るに手の入るものなり、

〔食物和歌本草〕鶯

鶯の肉は五臓の熱を解しにけり、煮汁は消渴止こそすれ、鶯の膏皮膚をうるほす物ぞかし、手足のひびに付てよき也、鶯の肉は多食べからず、霍亂や又は痼疾の發るもの也、

〔日本書紀〕雄略十四十年九月戊子、身狹村主青等、將吳所獻二鶯、到於筑紫、是鶯爲水間君犬所嚙死、別本云、是

鶯爲筑紫嶺縣主泥麻呂犬所嚙死、

〔日本書紀〕三十持統六年九月癸丑、越前國司獻白鶯、○鶯原作蛾、據一本改、

〔日本紀略〕嵯峨弘仁十一年五月甲辰、新羅人李長行等、進穀糶羊二、白羊四、山羊一、鶯二、

〔日本紀略〕醍醐延喜三年十月廿日、大唐人獻羊白鶯、

〔日本紀略〕三十二長和四年二月十二日、癸亥、今日太宰大監藤原藏規、進鶯二翼、孔雀一翼、

〔本朝世紀〕康和元年八月十六日丙戌、近曾鶯鳥一雙、返給本主宇佐大宮司公信許云々、自去年獻置

京極殿云々、家有大凶之故歟、